

2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年11月14日

上場会社名 株式会社北紡 上場取引所

東

コード番号 3409 URL http://www.ktbo.co.jp

代 表

者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 粕谷 俊昭

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役

(氏名) 篠原 顕二郎

(TEL) 076 (277) 7530

半期報告書提出予定日

2025年11月14日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日~2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

(1) No. 10 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)						7 7 3 1 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
	売上高	5	営業利	益	経常利	l益	親会社株主 する中間約	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	821	6.8	△34	_	△33	_	△36	_
2025年3月期中間期	768	22. 3	△35	_	△38	_	△40	_

(注)包括利益 2026年3月期中間期 △33百万円(—%) 2025年3月期中間期 △35百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円銭
2026年3月期中間期	△1.35	_
2025年3月期中間期	△1.97	_

(注)潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、第102期中間連結会計期間は、1株当たり中間純損失であり、潜 在株式が存在しないため記載しておりません。また、第103期中間連結会計期間は潜在株式が存在するものの、1株当た り中間純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	2, 178	1, 288	57. 4
2025年3月期	2, 154	1, 189	53. 4

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 1,251百万円

2025年3月期 1.151百万円

2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
2025年3月期	円 銭	円 銭 0.00	円 銭	円 銭 0.00	円 銭 0.00		
2026年3月期	_	0.00		3. 33	0.00		
2026年3月期(予想)			_	0.00	0.00		

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	i	営業利	益	経常利:	益	親会社株主 する当期約	に帰属 純利益	1株当たり 当期純利益	り 益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2, 002	22. 5	17	_	23	_	16	_	0	. 32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 -社(社名) — 、除外 -社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更
 ①以外の会計方針の変更
 会計上の見積りの変更
 無
 修正再表示

: 無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

2026年3月期中間期	27, 681, 494株	2025年3月期	25, 481, 494株
2026年3月期中間期	244, 232株	2025年3月期	244, 232株
2026年3月期中間期	26, 665, 677株	2025年3月期中間期	20, 496, 015株

- ※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予測に関する事項は、添付資料4ページ「業績予測などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)経営成績に関する説明	
(2) 財政状態に関する説明	3
(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1)中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)	10
(セグメント情報等の注記)	11
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日において当社が判断したものであります。

(1)経営成績の分析

当中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日)における世界経済は、北米の通商政策動向をはじめ、ウクライナ情勢や中国経済の低迷が長期化し、国際的な貿易投資環境に対する先行き不透明感は依然として高まっております。加えて、為替相場も急変動を続け、輸入コストの増加等の不安定要因も未だ顕在しています。

我が国経済においては、企業の設備投資の持ち直しや、雇用・所得環境改善等の各種経済政策の効果により、景気は緩やかな回復が続いているものの、海外景気の下振れリスクや、米国関税政策の影響、継続的な物価や金利の上昇等が直接的・間接的に企業の経済活動や個人消費へ影響することが懸念され、依然として予断を許さない状況が継続しました。

このような環境下、当社グループでは前連結会計年度に公表した、2025年3月期から2027年3月期に係る新中期経営計画の2年目を迎え、既存事業の黒字化と安定化に重点を置きながら、コアとなる新規事業への参画を進めております。2025年6月30日開催の第102回定時株主総会においては、商号変更と事業目的の追加を決議し、新社名を「株式会社北紡」と改めました。新たな決意とともに、志操堅固の姿勢で経営課題の克服と持続的成長の実現に努めてまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高821,200千円(前年同期比6.8%増)、営業損失34,437千円(前年同期は営業損失35,309千円)、経常損失33,580千円(前年同期は経常損失38,888千円)、親会社株主に帰属する中間純損失36,231千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失40,422千円)となりました。

当社個別決算につきましては、前年同期 (2024年 4 月~2024年 9 月) との比較で売上高が増加傾向にあるほか、営業損益については大きな改善は無かったものの、経常損失については受取配当金や為替の影響が好調に影響したことで赤字幅が改善しております。

回次		第102期 上期中間会計期間	第103期 上期中間会計期間	
△⇒₩問		自 2024年4月1日	自 2025年4月1日	前年同四半期比較
会計期間		至 2024年9月30日	至 2025年9月30日	
売上高	(千円)	664, 407	708, 888	+44, 480 (6.6%)
営業損失(△)	(千円)	△31, 605	△34, 444	_
経常利益又は 経常損失(△)	(千円)	△34, 446	△32, 256	_

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、各セグメントの営業損失は、各事業に配分していない全社費用80,337千円を配分する前の金額であります。

(紡績事業)

当中間連結会計期間における当該事業の状況につきましては、予算計画の範囲内であるものの生産量は1割以上減少しており、受注状況は厳しい傾向にあります。主力のアラミド繊維製品は、防護衣料用途向けをはじめとした官需用紡績糸における大口品番の終了により大幅減少となり、自動車部品向け工業用途向けを含めたトータル生産量は前年同期(2024年4月~2024年9月)より19.1%減少の194.3 t となりました。

それ以外の紡績糸につきましては、高級インナー向け紡績糸は紡績糸需要期に入り底堅く推移しており、前年同期より生産量は4割強増加して38.3 t となったものの、ポリエステル等の他素材は輸入品との価格差から競争力が低下したことにより前年同期より1割強減少し24.2 t となりました。

この結果、紡績事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高163,540千円(前年同期比18.6%減)、営業損失10,511千円(前年同期は7,394千円の営業利益)となりました。

(テキスタイル事業)

当中間連結会計期間における販売状況につきましては、インドネシア向け商品の販売が国内情勢悪化の影響を受けて伸び悩み、出荷数量が減少となりました。中東向け商品については計画比で順調な契約状況となり、営業利益については前年同期より1割程減少しているものの、売上高は予算計画に対して比較的良好に推移しております。

市況に関しては中東・東南アジア共に需要回復の動きが鈍く、商社側の港在庫数量も増加傾向にあります。加えて中国等の他社品の新規マーケット参入により、価格面で影響を受けております。今後はこういった市場のマイナス要因や委託加工コスト・販売コストの上昇等のリスクを考慮して、収益力向上に向けた受注活動に努めて参ります。

この結果、テキスタイル事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高365,292千円(前年同期比7.1%減)、営業利益37,513千円(前年同期比14.6%減)となりました。

(ヘルスケア事業)

当中間連結会計期間における当該事業の状況につきましては、子会社である中部薬品工業では、ダイエット紅茶やのど飴が6月の急激な気温上昇の影響を受けて販売状況が計画より遅れたものの、その後は新製品「中薬しょうがのど飴」が、既存製品ののど飴を取扱う大手販売店へ姉妹品として提案し順調に導入が進んだことで、販売状況全体としては前年同期比で大きな落ち込みはなく、現時点では営業損益も概ね通期業績予想の予算計画通りに推移しております。

また、前連結会計年度より開始した防犯防災セキュリティー管理システムの販売につきましては、北陸3県および新潟地域において拡販が堅調に進んでおり、売上高、営業利益ともに予算計画を上回る実績を達成しております。

この結果、ヘルスケア事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高165,023千円(前年同期比151.7%増)、営業利益18,602千円(前年同期は1,826千円の営業損失)となりました。

(リサイクル事業)

当中間連結会計期間における当該事業の状況につきましては、リサイクル市場の需要動向は回復傾向にあり、出荷数量は順調に推移しております。生産状況につきましても、特段の機械設備のトラブルや休止は無く順調に進んだことで製造原価の低減に繋がり、製品単位あたりの利益率が向上しました。

この結果、リサイクル事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高131,293千円(前年同期比20.9%増)、営業利益13,749千円(前年同期は13,752千円の営業損失)となりました。

(クリプトマネジメント事業)

当中間連結会計期間におきましては、暗号資産を管理および購入するクリプトマネジメント事業を新たに開始し、暗号資産市場は依然として変動の大きい環境下にあるものの、ビットコイン価格は概ね堅調に推移いたしました。

長期的な資産形成およびトレジャリー運用の一環として、毎営業日一定額200万円のビットコインを継続的に購入しており、これにより、当社として初めて暗号資産の取得を開始いたしました。暗号資産の保有に伴い、その市場価格変動が当該事業の収益に影響を及ぼしております。

この結果、クリプトマネジメント事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高(暗号資産の評価損を含む)△3,949千円、営業損失13,132千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末より24,418千円増加し2,178,498千円となりました。これは主に後述のとおり、新株予約権の行使による新株発行の払込があった一方で、暗号資産の取得や長期借入金の返済による支出、非上場株式への出資や諸税金の納付等により現金及び預金が99,205千円減少し413,725千円になるとともに、暗号資産を含むその

他の流動資産が108,886千円増加し133,437千円に、投資有価証券が時価の上昇と新規出資により14,028千円増加し154,812千円に、および、テキスタイル事業部の商品在庫増加9,870千円等により商品及び製品が17,531千円増加し123,637千円になった影響であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末より74,115千円減少し890,296千円となりました。これは主に、消費税の納付により未払消費税が32,536千円減少し14,122千円に、金融機関への長期借入金の繰り上げ返済等により長期借入金および1年内返済予定の長期借入金が44,086千円減少し178,563千円になった影響であります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末より98,534千円増加し1,288,202千円となりました。これは主に、新株発行の払込により資本金が66,847千円増加し1,446,315千円に、資本準備金が66,847千円増加し744,910千円になった一方で、親会社株主に帰属する中間純損失を計上したことにより利益剰余金が36,231千円減少し \triangle 1,365,331千円になった影響であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、413,725千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動による資金は168,485千円の減少(前中間連結会計期間は37,408千円の減少)となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失 \triangle 33,180千円を計上したことに加え、棚卸資産の増加 \triangle 15,375千円、暗号資産の増加 \triangle 112,671千円や、未払消費税等の減少 \triangle 32,284千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動による資金は16,433千円の減少(前中間連結会計期間は4,341千円の減少)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出△6,816千円、投資有価証券の取得による支出△10,000千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動による資金は85,833千円の増加(前中間連結会計期間は107,654千円の増加)となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入132,000千円があった一方で、長期借入金の返済による支出 \triangle 49,086千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想については2025年5月14日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

		(単位:千円)
	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	512, 931	413, 725
受取手形及び売掛金	227, 108	217, 406
商品及び製品	106, 106	123, 637
仕掛品	17, 560	18, 348
原材料及び貯蔵品	9, 281	6, 338
その他	24, 551	133, 437
貸倒引当金	△2, 193	△156
流動資産合計	895, 347	912, 738
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	35, 976	33, 534
機械装置及び運搬具(純額)	71, 862	70, 643
土地	964, 113	964, 113
リース資産 (純額)	4, 508	4, 637
建設仮勘定	1, 805	305
その他(純額)	3, 760	3, 171
有形固定資産合計	1, 082, 027	1, 076, 405
無形固定資産		
ソフトウエア	1, 349	1, 190
リース資産	0	0
電話加入権	97	97
無形固定資産合計	1, 447	1, 288
投資その他の資産		
投資有価証券	140, 784	154, 812
敷金及び保証金	31, 839	31, 856
その他	2, 634	1, 397
投資その他の資産合計	175, 258	188, 067
固定資産合計	1, 258, 733	1, 265, 760
資産合計	2, 154, 080	2, 178, 498

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65, 129	74, 019
短期借入金	311, 500	311, 500
1年内返済予定の長期借入金	38, 672	31, 752
リース債務	1, 461	1,623
未払消費税等	46, 658	14, 122
未払法人税等	9, 689	9, 034
賞与引当金	9, 859	6, 174
その他	58, 543	54, 425
流動負債合計	541, 514	502, 652
固定負債		
長期借入金	183, 978	146, 810
リース債務	3, 992	3, 852
繰延税金負債	6, 598	7, 86
再評価に係る繰延税金負債	202, 560	202, 560
退職給付に係る負債	13, 120	13, 910
その他	12, 648	12, 648
固定負債合計	422, 897	387, 64
負債合計	964, 411	890, 290
純資産の部		
株主資本		
資本金	1, 379, 468	1, 446, 315
資本剰余金	678, 063	744, 910
利益剰余金	△1, 329, 099	$\triangle 1, 365, 331$
自己株式	△32, 863	△32, 863
株主資本合計	695, 569	793, 031
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12, 021	14, 786
土地再評価差額金	443, 577	443, 577
その他の包括利益累計額合計	455, 599	458, 364
新株予約権	38, 500	36, 806
純資産合計	1, 189, 668	1, 288, 202
負債純資産合計	2, 154, 080	2, 178, 498

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 中間連結損益計算書

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日	(単位:千円) 当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日
	至 2024年9月30日)	至 2025年9月30日)
売上高	768, 658	821, 200
売上原価	667, 782	684, 687
売上総利益	100, 875	136, 512
販売費及び一般管理費		
役員報酬	12, 330	13, 350
給料及び手当	28, 019	31, 809
賞与引当金繰入額	2, 842	2, 277
支払報酬	13, 640	13, 427
支払手数料	8, 019	16, 815
販売促進費	_	14, 584
雑費	16, 979	19, 197
その他	54, 353	59, 487
販売費及び一般管理費合計	136, 185	170, 950
営業損失(△)	△35, 309	△34, 437
営業外収益		
受取利息	37	490
受取配当金	1,829	2, 586
不動産賃貸料	2,810	2, 800
為替差益	_	2, 143
その他	2, 007	1,050
営業外収益合計	6, 685	9,071
営業外費用		
支払利息	5, 236	6, 300
為替差損	4, 080	_
新株発行費	_	1, 262
雑損失	303	426
その他	644	225
営業外費用合計	10, 264	8, 214
経常損失(△)	△38, 888	△33, 580
特別利益		
固定資産売却益	539	399
特別利益合計	539	399
税金等調整前中間純損失 (△)	△38, 348	△33, 180
法人税、住民税及び事業税	3,050	3,050
法人税等調整額	△977	
法人税等合計	2,073	3, 050
中間純損失(△)	△40, 422	△36, 231
非支配株主に帰属する中間純利益		
親会社株主に帰属する中間純損失(△)		△36, 231
		_==,===

中間連結包括利益計算書

		(単位:千円)
	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純損失 (△)	△40, 422	△36, 231
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5, 228	2, 764
その他の包括利益合計	5, 228	2, 764
中間包括利益		△33, 466
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△35, 194	△33, 466
非支配株主に係る中間包括利益	_	<u> </u>

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

		(単位:千円)
	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失 (△)	△38, 348	△33, 180
減価償却費	7, 991	10, 315
受取利息及び受取配当金	△1,867	△3, 077
支払利息	5, 236	6, 300
為替差損益(△は益)	2, 363	120
売上債権の増減額(△は増加)	△1, 174	9, 701
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	_	△2, 036
棚卸資産の増減額(△は増加)	△12, 559	△15, 375
仕入債務の増減額(△は減少)	$\triangle 2,927$	8,890
未払金の増減額(△は減少)	651	$\triangle 2,270$
前渡金の増減額(△は増加)	19, 126	2, 132
仮払金の増減額(△は増加)	9	_
未収入金の増減額(△は増加)	1, 280	738
暗号資産の増減額 (△は増加)	<u> </u>	△112, 671
未収消費税等の増減額(△は増加)	<u> </u>	△76
未払消費税等の増減額(△は減少)	17, 754	△32, 284
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は 減少)	△ 5, 573	△421
その他	△1, 839	278
小計	△9, 876	△162, 916
利息及び配当金の受取額	2, 636	3, 077
利息の支払額	△6, 003	△6, 078
法人税等の支払額	△24, 664	△3, 284
法人税等の還付額	_	717
補助金の受取額	500	_
営業活動によるキャッシュ・フロー	△37, 408	△168, 485
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4, 575	△6, 816
無形固定資産の取得による支出	△300	_
有形固定資産の売却による収入	_	400
投資有価証券の取得による支出	<u> </u>	△10,000
その他	534	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4, 341	△16, 433
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	10, 000	5, 000
長期借入金の返済による支出	△13, 116	△49, 086
リース債務の返済による支出	△524	△825
新株予約権の行使による株式の発行による収入	111, 295	132, 000
その他	<u> </u>	△1, 254
財務活動によるキャッシュ・フロー	107, 654	85, 833
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2, 363	△120
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	63, 540	△99, 205
現金及び現金同等物の期首残高	216, 102	512, 931
現金及び現金同等物の中間期末残高	279, 643	413, 725

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係は、次の とおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
現金及び預金	279,643千円	413,725千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	一千円	一千円
現金及び現金同等物	279, 643千円	413,725千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額並びに収益の分解情報

(単位:千円) 中間連結 報告セグメント その他 調整額 損益計算書 テキスタイル ヘルスケア リサイクル (注) 1 計上額 (注) 2 紡績事業 計 事業 事業 事業 (注)3 売上高 アラミド 169, 971 169,971 169, 971 ポリテロン 14, 391 14, 391 14, 391 その他紡績 16,686 16,686 16,686 衣料用生地 393, 504 393, 504 393, 504 販売 不織布 219 219 219 マスク その他衛生 65, 323 65, 323 65, 323 関連製品 プラスチッ クリサイク 108, 562 108, 562 108, 562 ル製品 顧客との契 約から生じ 201, 049 393, 504 65, 542 108, 562 768,658 768,658 る収益 外部顧客へ 201, 049 393, 504 65, 542 108, 562 768,658 768,658 の売上高 セグメント 間の内部 売上高又は 振替高 セグメント 利益又は 7,394 43, 952 $\triangle 13,752$ 35, 768 △70, 976 △35, 309 $\triangle 1,826$ $\triangle 101$ セグメント 損失 (△)

- (注)1.「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、M&A等の仲介事業であります。
 - 2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - 3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自2025年4月1日 至2025年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額並びに収益の分解情報

(単位:千円)

							(中世・111)			
	報告セグメント						その他	調整額	中間連結	
	紡績事業	テキスタイル 事業	ヘルスケア 事業	リサイクル 事業	クリプトマネ ジメント事業	計	(注) 1	(注) 2	損益計算書 計上額(注)3	
売上高										
アラミド	127, 576	_	_	_	_	127, 576	_	_	127, 576	
ポリテロン	25, 992	_	_	_	_	25, 992		_	25, 992	
その他紡績	9, 970	_	_	_	_	9, 970		_	9, 970	
衣料用生地 販売	_	365, 292	_	_	_	365, 292	_	_	365, 292	
セキュリティ 機器の販売	_	_	101, 730	_	_	101, 730	_	_	101, 730	
その他衛生 関連製品	_	_	63, 292	_	_	63, 292	_	_	63, 292	
プラスチック リサイクル 製品	_	_	_	131, 293	_	131, 293	_	_	131, 293	
暗号資産に関 連する 管理と取引	_	_	_	_	△3, 949	△3, 949	_	_	△3, 949	
顧客との契約 から生じる収 益	163, 540	365, 292	165, 023	131, 293	△3, 949	821, 200	_	_	821, 200	
外部顧客への 売上高	163, 540	365, 292	165, 023	131, 293	△3, 949	821, 200	_	_	821, 200	
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
セグメント利益 又はセグメント 損失 (△)	△10, 511	37, 513	18, 602	13, 749	△13, 132	46, 222	△323	△80, 337	△34, 437	

- (注)1.「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、M&A等の仲介事業であります。
 - 2. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - 3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、新たに暗号資産に関連する事業を開始したことに伴い、報告セグメントとして「クリプトマネジメント事業」を新たな報告セグメントとして記載しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、第96期から連続して営業損失を計上しており、当中間連結会計期間においても34,437千円の営業損失を計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。 当社グループは、当該事象に対応すべく、以下の対応策を実施しております。

① 紡績事業及びテキスタイル事業の強化

紡績事業は、取引先との連携強化、研究開発の迅速化により高機能繊維の開発及び生産効率の改善をより一層 図るとともに、利益率の向上を目指します。

テキスタイル事業は、グレード及び加工場の多様化による販売強化に取り組み、利益の最大化を図ります。

② ヘルスケア事業のポートフォリオ変更

ヘルスケア事業は、新規商材である防犯防災セキュリティー管理システムの販売強化、連結子会社である中部 薬品工業を中核としたオーラルケア用品や健康補助食品の開発強化に取り組みます。

③リサイクル事業の強化

リサイクル事業は、既存の品目における安定的な稼働を重視し、収益の確保と営業利益の早期改善に取り組んでまいります。

④ キャッシュ・フローの改善

運転資金面では、金融機関からの当座貸越および長期借入契約により調達した資金を活用しているものの、新規設備や商品仕入の先行投資のため、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローは継続してマイナスの状態にあります。引き続き、投資の早期収益化に努めてまいります。なお、2024年11月19日に発行を決議した新株式については、前連結会計年度において2025年1月15日に払込を受け、当中間連結会計期間においても新株予約権の行使により2025年5月から6月にかけて132百万円の払込を受けていることから、今後の資金的余裕は担保しております。

これらの対応策を進めていくことにより、当中間連結会計期間末において継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。